

☆年間第33主日(11月19日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (箴言 31章 10-13, 19-20, 30-31 節)

有能な妻を見いだすのは誰か。真珠よりはるかに貴い妻を。
夫は心から彼女を信頼している。儲けに不足することはない。
彼女は生涯の日々夫に幸いはもたらすが、災いはもたらさない。
羊毛と亜麻を求め手ずから望みどおりのものに仕立てる。
手を糸車に伸べ、手のひらに錘をあやつる。貧しい人には手を開き、
乏しい人に手を伸べる。あでやかさは欺き、美しさは空しい。
主を畏れる女こそ、たたえられる。彼女にその手の実りを報いよ。
その業を町の城門でたたえよ。

答唱詩編 (詩編 128 篇)

しあわせな人、神をおそれ主の道を歩む者。
ひたいに汗してかてを受け、恵みと平和に満たされる。
実り豊かなぶどうの木のように、妻は家庭をうるおす。
オリーブの若木のように、子どもたちは食卓を囲む。
神の祝福がシオンから臨み、いのちのある限り、
エルサレムの栄えと数多くの子孫の群れを見る。

第二朗読 (使徒パウロのテサロニケの教会への手紙 I 5章 1-6 節)

兄弟たち、その時と時期についてあなたがたには書き記す必要はありません。盗人が夜やって来るように、主の日は来るということを、あなたがた自身よく知っているからです。人々が「無事だ。安全だ」と言っているそのやさきに、突然、破滅が襲うのです。ちょうど妊婦に産みの苦しみがやって来るのと同じで、決してそれから逃れられません。

しかし、兄弟たち、あなたがたは暗闇の中にはありません。
ですから、主の日が、盗人のように突然あなたがたを襲うことはないのです。

あなたがたはすべて光の子、昼の子だからです。わたしたちは、夜にも暗闇にも属していません。従って、ほかの人々のように眠っていないで、目を覚まし、身を慎んでいきましょう。

福音朗読 (マタイによる福音書 25章 14-30節)

そのとき、イエスは弟子たちにこのたとえを語られた。

「天の国はまた次のようにたとえられる。ある人が旅行に出かけるとき、僕たちを呼んで、自分の財産を預けた。それぞれの力に応じて、一人には五タラントン、一人には二タラントン、もう一人には一タラントンを預けて旅に出かけた。早速、五タラントン預かった者は出て行き、それで商売をして、ほかに五タラントンをもうけた。同じように、二タラントン預かった者も、ほかに二タラントンをもうけた。しかし、一タラントン預かった者は、出て行って穴を掘り、主人の金を隠しておいた。

さて、かなり日がたってから、僕たちの主人が帰って来て、彼らと清算を始めた。まず、五タラントン預かった者が進み出て、ほかの五タラントンを差し出して言った。『御主人様、五タラントンお預けになりましたが、御覧ください。ほかに五タラントンもうけました。』主人は言った。『忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』

次に、二タラントン預かった者も進み出て言った。『御主人様、二タラントンお預けになりましたが、御覧ください。ほかに二タラントンもうけました。』主人は言った。『忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』

ところで、一タラントン預かった者も進み出て言った。『御主人様、あなたは蒔かない所から刈り取り、散らさない所からかき集められる厳しい方だと知っていましたので、恐ろしくなり、出かけて行って、あなたのタラントンを地の中に隠しておきました。御覧ください。これがあなたのお金です。』主人は答えた。『怠け者の悪い僕だ。わたしが蒔かない所から刈り取り、散らさない所からかき集めることを知っていたのか。それなら、わたしの金を銀行に入れておくべきであった。そうしておけば、帰って来たとき、利息付きで

返してもらえたのに。さあ、そのタラントンをこの男から取り上げて、十タラントン持っている者に与えよ。だれでも持っている人は更に与えられて豊かになるが、持っていない人は持っているものまでも取り上げられる。この役に立たない僕を外の暗闇に追い出せ。そこで泣きわめいて歯ぎしりするだろう。』』

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

ようやく晩秋の寒さがやってきましたね。今年は秋の季節がないようですね。それでも自然界はきちんと姿を変えて、神さまの計画を実現していています。人間は危機が訪れるとすぐに狼狽えてしまいますが、自然界はそれもこれも織り込み済みと言わんばかりに、素直にその危機に立ち向かっています。見習いたいものです。

さて今日は二つのことを思い起こしましょう。一つは「貧しい人のための世界祈願日」です。経済的に優位にある私たちの陰で多くの人たちが飢えに苦しんでいます。このことはいつも私たちの心を暗くします。私たちの少しばかりの豊かさも多くの貧しい人々の苦しみの上に成り立っていることを思い起こし祈りましょう。そしてわずかの支援でも差し出しましょう。もう一つは今日から聖書週間が始まります。聖書は神のことばを聖霊に満たされた人が書き起こしたものです。とくに福音書はイエスと生活した人々からの言い伝えを書き取り、多くの人に伝えようとしたものです。私たちはその福音書を手に取って、当時の弟子たちの熱い信仰をそこに感じ取る必要があるのです。どうか毎日少しでも福音書を手にとって読んでみてください。

第一朗読 (箴言 31章 10-13, 19-20, 30-31 節)

ここでは有能な妻についての言葉が挙げられています。このような妻(女性)いることは、夫婦にとっても社会にとっても有益だと言っています。この女性は単に有能だけなのでしょう。この女性の心には主なる神を畏れ敬う心、すなわち正しい知恵を持っているのだと著者は述べているのです。主なる神を心こそこの女性の徳なのです。この神の心を畏れ敬う

ことが本当の知恵、讃うべき誉なのです。

答唱詩編（詩編 128 篇）

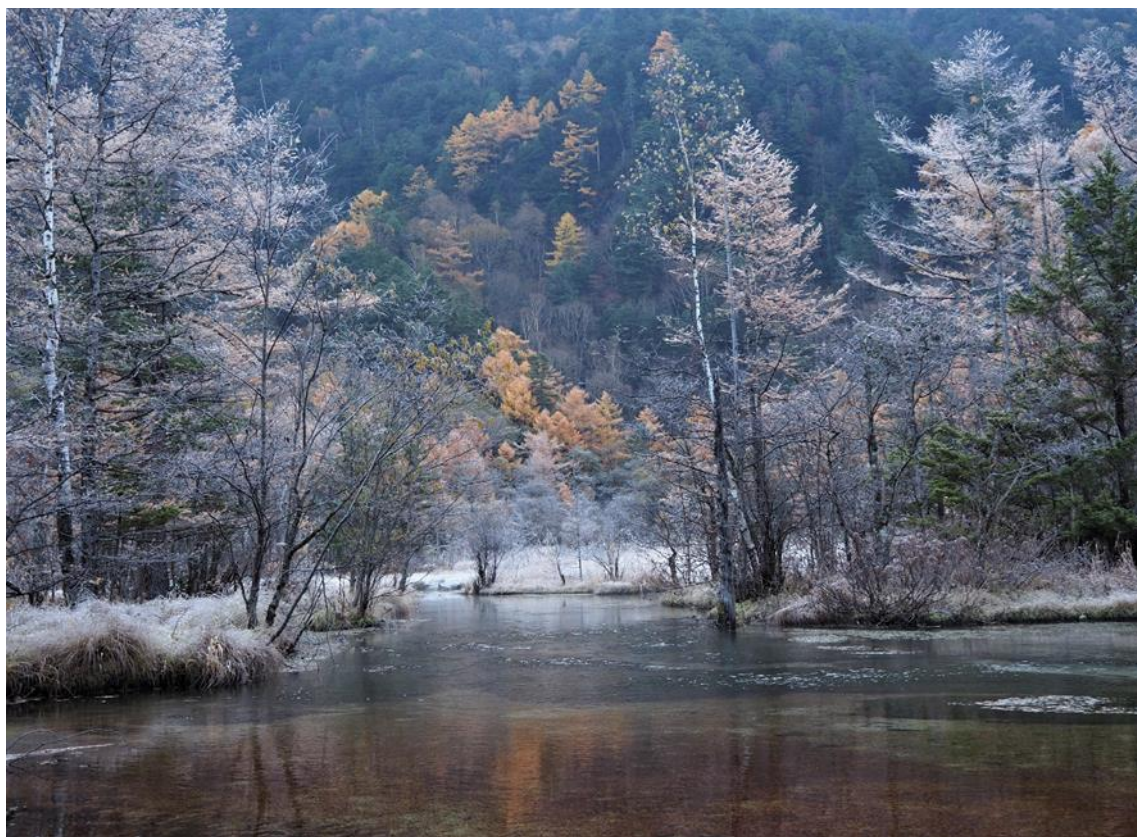
ここでは箴言で語られている女性のことが褒め称えられています。実り多いぶどうの樹、たわわに実ったオリーブの木のようにと讃えています。その実りは神からの恵みです。

第二朗読（使徒パウロのテサロニケの教会への手紙 I 5章 1-6節）

突然の出来事として、人の子が現れるとパウロは述べています。日本では近い将来に南海トラフ地震が起こるとして、その被害を最小限にとどめるようと、防災訓練や設備を整えていますね。地震の仕組みはまだよくわかっていませんが、使徒パウロは私たちは光の子、昼の子だから突然の出来事のも慌てることはないと言っています。「光の子」「昼の子」とはどういうことでしょうか。それは私たちがイエスの生涯を通しての模範によってどう生きて行けばよいかを知っている、ということです。

福音朗読（マタイによる福音書 25章 14-30節）

イエスはこのたとえ話によって何を伝えたかったのでしょうか。イエスの話では主人はそれぞれの力に応じて僕たちに五タラントン、二タラントン、一タラントンを預けたと述べています。その額は決して少なくはないのです。一タラントンは現在の貨幣価値に換算すると、日当を一万円とすると約6,000万円になります。それぞれの力に応じてとありますから、それほど力のない僕にも、6,000万円の価値を認めていたことになります。私たちはどうでしょう。自分の価値をどう見ているのでしょうか。自分の生涯の価値をお金に換算して考えることはふさわしいことではありませんが、神は私にお金では換算できない素晴らしい価値を見ておられることを考えることは正しい考えです。今をいたずらに嘆くことなく、今を生かして神にお返しするようにしましょう。



晩秋の上高地・田代池（2019年11月）

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光